

## 感 想 文

広島平和の旅に参加した皆さんが、それぞれの想いを胸に、被爆地広島を訪れました。そして、たくさんの方を見て・聞いて・感じてきました。

ここでは、広島平和の旅をとおして印象に残ったことを、ありのままに書いていただきました。

今回、旅に参加した皆さんには、広島はどう映り、何を感じたのでしょうか。



※原則として、感想文などは原文のまま掲載しています。

## 平和な世の中に

浅野 通代

8月5日 午後広島に着きました。ホテルに荷物を預けたのち、公園に行きました。原爆ドームは大きな木立に囲まれて、一寸と黒ずんだその姿は沢山の人の悲しみを抱いて静かに立っていました。西東京市では非核平和都市宣言をしていて、日頃から勉強していらっしゃる皆様に関心しました。私は80才まで学校ではもちろん一度も勉強したことはありませんでした。3年前西東京市に引越して来て広報で広島平和の旅の参加者募集を知り幸運にも参加資格を得ました。改めて戦争の事を思い出すことになりました。ありがとうございました。

公園の中の施設にて展示品を見ることになりました。整った展示物が並んでいるのを順次拝見していく内、何か物足りなさを感じました。セピア色の写真とか過ぎし日の遺品からもっと叫び声が聞えて来るものと思っ  
ていましたが、私の心の中はひびくものが少なかった。その中で一つ帰宅後写真を焼いて見たら真っ暗な中の伸ちゃんの三輪車があったんです。それは黄金の三輪車となって写ったのです。後ろには七五三の祝着の女の子と男の子が写っていました。女の子は私（80代）と同年代、存命であったなと思うと戦争は許せません。

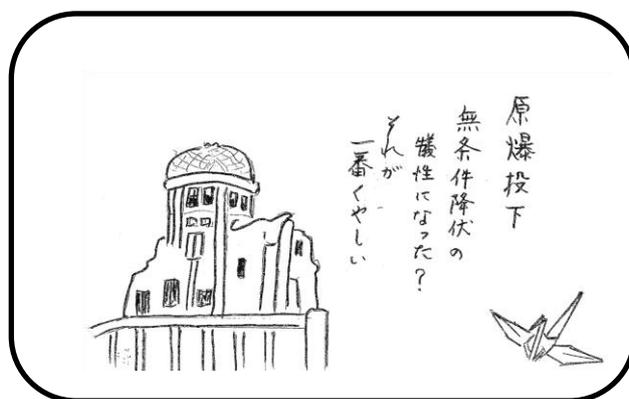
8月6日 台風の影響でくもりでした。平和記念式典は静かに終わりました。

た。最後に献花をしました。その時雨が降って来ました。本川小学校の見学が終わるころ涙雨はやみました。

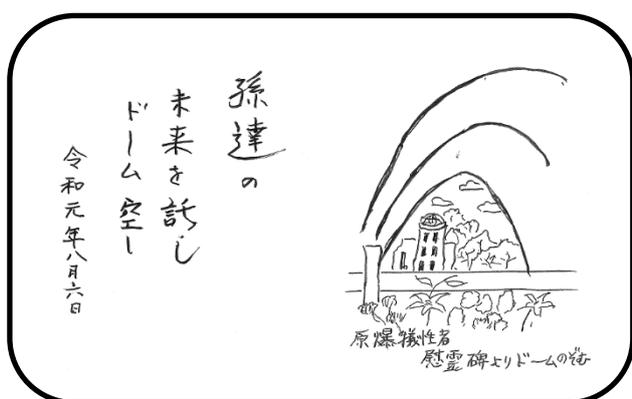
小学生のメッセージのような世の中になって行きます様に心から祈っております。



旅に参加する前の広島イメージ



旅に参加した後の広島イメージ



## 自分にもできること

中村 玲子

『見ると聞くとは大違い』

『百聞は一見に如かず』

広島に行ってまず思い浮かんだ言葉でした。今までの人生の中で、広島の話の聞いたり、写真や本を見たりもしてきましたが、比にならない程の感情で、体全体が埋め尽くされていくようでした。…来るだけでも意味があったんだな…と思いました。

私がそのような感じ方をしたのは、おそらく、この日のためにたくさんの人々が国籍を問わず訪れていたことや、広島の方々が力を合わせて、平和な世界にする努力を下さってる事が感じ取れたからなのだと思います。

たくさんの貴重な体験や、お話を聞かせて頂き、思うこともたくさんあった2日間でしたが、その中でも一番心に残っている事は、式典での子ども代表の言葉でした。

『「ありがとう」や「ごめんね」の言葉で認め合い許し合うこと、寄り添い助け合うこと、相手を知り、違いを理解しようと努力すること。自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにも、できることです』

この言葉を聞き、私のするべき事がわかった気がしました。

自分の周りを平和にしていく事。そして、周りの友達に、私が見聞きした事を話す事。まずは自分の周りから、それが大切な一歩になると確信しています。東京にいてもできる事、私も始めます！！

最後になりましたが、私達に貴重な体験をさせて下さった、数々の人にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今の気持ちを忘れそうになった時はまた、広島を訪れ、初心を思い出させてもらおうと思います。

#### 旅に参加する前の広島のイメージ



- 牡蠣がおいしい！！
- 広島カープ♥
- 原爆ドーム
- はだしのゲン

#### 旅に参加した後の広島のイメージ

- 「決して繰り返してはいけない」という現地の人々の強い決意
- 針が有名なことは知らなかった  
…👉



## 広島平和の旅に参加して

中村 レイ

私は今回のツアーの中で、一番印象に残ったのは、「被爆体験者 切明千枝子さんによる講話」が印象に残りました。

ふだんから、勉強じゃなく、中国に行く人たちを送る日々。と言っていました。それは今の私達には考えられないことなのでおどろきました。

原ばくがおとされた8月6日。いっしょんして多くの命がぎせいになった日。千枝子さんは、はなれた場所にいたようで、軽しょうですみました。学校にもどると、かわがはがれ、顔がふくれあがりなから学校まで歩いて来た生徒がいたそうです。学校の理科室のつくえにけが人をねころがらせました。その中で亡くなってしまう方もいて、ほおっておけないので、校庭で焼いたそうです。先生に手伝いををたのまれ、千枝子さんも手伝ったと言っていました。千枝子さんは、「私はこの手で下級生を焼いたんです。」と言っていました。その言葉を聞いて、私ならこわくてできないと思いました。しかし、やらなければいけない。ということで千枝子さんは手伝ったのでしょう。すごく責任感が強くてすごいと思いました。

私は今回の平和の旅を終え、平和の大切さを知りました。そして今、戦争をしたら、原ばくはもっと広はんいなものなどが作れると思います。決して戦争は行なってはならない事だと深く感じました。

### 旅に参加する前の広島イメージ



- 広島お好み焼
- 高いビルなどはあまり無いイメージ
- 「ほうげん」があるイメージ
- 広島カープ

### 旅に参加した後の広島イメージ

- 広島県民全員が一体化
- 過去にあった事を二度とないよう  
広島のことを思ってる感じ
- 高いビルなどが多かった（広島えき周辺）
- どのおみやげ屋さんにも広島カープグッズがあった



## 平和を守るということ

藤原 和子

この度、もともと世界遺産に興味がある娘に、原爆ドームを勉強してみようかというきっかけから、「戦争、原爆、平和」という大きなテーマについて、親子で考える、生涯忘れられない機会となりました。

1日目の被爆体験者の講話では、90才になる切明さんに、当時15才だったときのお話を伺いました。終始、優しく丁寧な語り口調の中、こんな言葉がありました。

“戦争はいつのまにか忍び込む。平和をどうか守ってください。平和は座っているだけでは守れない。平和は守らないと逃げていきます。”

私は、平和を守るためにどうしたらよいか、何ができるのか、そのことを1日目を終えて考えました。

簡単にどうするという答えが出せぬ大きなテーマをもって2日目、「平和記念式典」の日を迎えました。当日の朝、平和を祈るたくさんの人々が、原爆が投下された午前8時15分に祈りの黙とうをささげるため、会場へ向かいます。ニュースではおよそ5万人が参列したと報じていましたが、実際の会場周辺は、たくさんの人で前になかなか進めないような状況の中、とても静かで、整然とし、厳かな様子であったことがとても印象に残っています。本当に貴重な式典への参列でしたが、その式典の、こども代表による「平和への誓い」の中に、私が1日目にテーマとした平和をどう守る

かについてのヒントがありました。私がこの誓いを聞いたとき、平和について頭で考えすぎ、置いてきぼりとなっていた心から涙があふれ、それと同時に何か心が軽くなるように感じました。最後にその誓いを一部紹介して終わります。

“国や文化や歴史、違いはたくさんあるけれど、大切なもの、大切な人を思う気持ちは同じです。みんなの「大切」を守りたい。「ありがとう。」や「ごめんね。」の言葉で認め合い許し合うこと、寄り添い、助け合うこと、相手を知り、違いを理解しようと努力すること。自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです。”

#### 旅に参加する前の広島イメージ



- 世界遺産「原爆ドーム」
- 厳島神社
- 広島風お好み焼き
- もみじ饅頭
- 広島東洋カープ

#### 旅に参加した後の広島イメージ

- 世界中から広島を訪れる人々への歓迎、おもてなし、思いやりの心
- 強く平和を祈る発信地



## 平和をいのる広島

藤原 さくら

私はこの旅で印象に残った場所が三つあります。一つ目は、原爆の子の像です。ここには世界中から平和を願う千羽づるがとどき、次々とかざられていきます。一つ一つに思いがこめられているつるを見て、亡くなった人々の分まで平和な暮らしを守りたいと思いました。二つ目は、世界遺産である原爆ドームです。原爆が落とされる前まではとても立派でしたが、原爆が落とされ、ボロボロになってしまいました。私は、原爆ドームを見て原爆はとてもおそろしい物だと分かりました。また、図かんなどで見るよりもとても大きくて、少しはなれた場所からでも見ることができました。三つ目は、平和記念資料館です。ここは、今年の四月二十五日にリニューアルオープンし、被爆者やいぞくの悲しみや苦しみの様子が展示されていました。活気のある広島市内に原爆が落ちる様子を、上空からのイメージ動画で見ることができて、とても分かりやすかったです。

私は、この旅を通して、いつまでも戦争のない時代を作り、平和な世界を守っていきたいと強く思いました。

### 旅に参加する前の広島イメージ



- 明るい性格（町の人々）
- 花をいつも平和記念公園などに置いている
- 広島に住んでいる人全員が原爆ドームのことを知っている。
- 8/6の日のことを本に書いている人がたくさんいる

### 旅に参加した後の広島イメージ

- 8/6のことをわすれない。
- 平和へのねがいが強い。
- つるのおり方をぜったいにしている。



## 非核・平和都市宣言

私たちは生きている。

おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち  
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している  
この地球で

私たちは持っている。

この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を  
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。

おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを  
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

私たちは訴える。

必要なのは笑顔での話し合いであることを  
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。

あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを  
あらゆるものの破滅を招く核兵器をなくすことを  
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを

世界に広く訴えるために

非核・平和都市 西東京市の  
宣言とする。

平成14年1月21日

西 東 京 市